

第三次佐久市農業振興ビジョン 骨子案

「標高の高さ」から新たな価値を創出し、守り育てる佐久の農と食

計画期間: 令和9年度～ 令和18年度

経済部 農政課

第1章 ビジョンの策定にあたって

策定の目的と背景

気候変動や社会情勢の変動なども踏まえ、引き続き持続可能な農政の展開を図る必要があるとともに、第二次計画の経過を踏まえつつ、本市独自の強みを生かした取り組みを施策に反映するため策定する。

位置づけ・他計画との整合

- ・上位計画: 「第三次佐久市総合計画」の部門別計画
- ・国・県動向: 国の「食料・農業・農村基本計画」、長野県の「食と農業農村振興計画」を踏まえたもの
- ・農政関係個別計画: 基本構想・農振整備計画・地域計画と連動 ほか他部門個別計画を含む

計画期間

令和9年度(2027)～ 令和18年度(2036)の10年間

※社会情勢などの変化に対応するため中間(5年目)に見直し。

第2章 佐久市農業の現状と課題

2,428.9h R7(2025) 年間日照(全国屈指)	県内2位 R7(2025) 水稲作付・収穫量
70.9歳 R7(2025) 農業従事者平均年齢	▲22.0% H27(2015)～R7(2025) 経営耕地面積(10年減少率)

佐久市農業の強みと前計画検証

- ・産出額(155.4億円 R6): 米40.9%、野菜31.0%
- ・標高の高さ、日照時間の長さ、首都圏へのアクセスしやすさ
- ・法人増加による経営規模拡大が進む一方、認定農業者の確保や農地 集積は引き続き課題
- ・市民基礎調査の分析

佐久市農業の課題

- ① 担い手の減少と労働力不足
- ② さらなる農地集積の必要性と老朽化インフラの管理
- ③ 市場やコスト変動に伴う収益悪化、生産効率化の遅れ
- ④ 野生鳥獣被害の増加と、田園景観や伝統食文化の衰退
- ⑤ 気候変動による生産リスクの増大

第3章 目指すべき姿(ビジョン)

【基本理念】

「標高の高さ」から新たな価値を創出し、
守り育てる佐久の農と食
～「産業としての農業」と「暮らしとしての農業」が持続するまち～

基本目標(4つの柱)

1 農業経営基盤の確立【人】

2 農業生産基盤の整備と維持【農地】

3 市の卓越性を生かした安心・安全な食料の供給【生産】

4 活力ある農村づくり【農村】

第4章 具体的施策の展開

農業経営基盤の確立【人】

農業者の維持確保、労働力補完(スマート農業など)、多様な主体の参画促進など

農業生産基盤の整備と維持【農地】

担い手への農地集約、インフラ維持、鳥獣被害対策、「農地バンク」による遊休農地活用推進など

市の卓越性を生かした安心・安全な食料の供給【生産】

市の卓越性(標高・日照時間・交通アクセスなど)を生かしたPR・販路拡大・産地化促進、環境に配慮した農業の推進、地産地消など

活力ある農村づくり【農村】

中山間農地の維持、伝統食や内水面漁業の継承、「農ある暮らし」や都市農村交流の推進など

素案作成段階にて具体的な施策を盛り込みます。

第5章 地域別の振興方針

市内7つの地域区分

各地域の農業特性に応じた地域別の振興方針を設定・推進

浅間地域

野沢地域

中込地域

東地域

臼田地域

浅科地域

望月地域

素案作成段階にて各地域の具体的な振興方針・方向性を盛り込みます。

第6章 計画の推進と進行管理

佐久市農業振興協議会を核とした推進体制
多様な主体による協議体制:

農業委員、農地利用最適化推進委員、農業者、地元区長、JAなどの農業団体、学識経験者で構成。施策推進の中核として本協議会を活用し、多角的な視点から施策の進捗・課題を定期検証。

成果指標(KPI)管理とPDCAサイクルの徹底
定量的なKPI設定:

4つの基本目標(人・農地・生産・農村)ごとに数値指標を設定し、客観的に評価。

機動的なPDCA運用:

単年度ごとの評価を踏まえ、社会経済情勢や現場ニーズの変化に応じて柔軟に施策へ反映。